

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
江畑智希 棚野正人 二村雄次	胆道疾患：胆嚢炎・胆管炎	跡見 裕 炭山嘉伸 門田守人	消化器外科学 レビュー	総合医学社	東京	2004	227-231
伊神 剛、 棚野正人	胆嚢摘出術：開腹・腹腔鏡下		麻酔科診療プラクティス 16	文光堂	東京	2004	146-147
遠藤 格、 嶋田 紘	肝門部胆管癌診療のコツ	北島政樹	消化器外科診療二頁の秘訣	金原出版	東京	2004	184-185
露口利夫、 税所宏光	胆道感染症（急性胆嚢炎、胆管炎）	黒川清、寺本民生	EBM 内科処方指針	中外医学社	東京	2004 年4月	478-484
露口利夫、 税所宏光	肝内結石 経乳頭的結石除去術	藤田直孝	胆道・膵疾患のインターベンション治療	メジカルビュー社	東京	2004 年3月	172-177
山下裕一	決して胆管損傷を起こさない腹腔鏡下胆嚢摘出術	北島政樹	消化器外科二頁の秘訣	金原出版	東京	2004	202-203
滝川 一	原発性硬化性胆管炎	財団法人日本消化器病学会	消化器病診療	医学書院	東京	2004	236-238
滝川 一	原発性硬化性胆管炎全国調査	厚生労働省科学研究費補助金 難治性の肝疾患に関する調査研究班	厚生労働省科学研究費補助金 難治性の肝疾患に関する調査研究 平成15年度研究報告書		東京	2004	13-14
平澤博之	ショック	小柳仁	標準外科学	医学書院	東京	2004	17-27
志賀 英敏 平澤博之 松田兼一	敗血症（高メタエーター血症）	日本アフエレスイス学会	新版アフエレススマニュアル	秀潤社	東京	2004	365-372
平澤博之	多臓器不全	日本アフエレスイス学会	新版アフエレススマニュアル	秀潤社	東京	2004	373-380

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
高田忠敬、吉田雅博	序/肝胆膵の救急画像—ガイドラインを踏まえて	消化器画像	6巻2号	163-165	2004
三浦文彦、高田忠敬	胆嚢炎、胆管炎の診断	日本医師会雑誌	133巻3号	347-350	2005
吉田雅博、高田忠敬、真弓俊彦	ガイドライン作成を考える—胆嚢炎・胆管炎—	胆と膵	Vol.25(2)	107-112	2004
吉田雅博、高田忠敬、安田秀喜	ガイドライン作成に向けての提案—急性膵炎診療ガイドライン作成経験より—	胆道	18巻2号	159-164	2004
三浦文彦、高田忠敬、長島郁雄	急性胆嚢炎(無石症)	消化器外科	27巻13号	1899-1904	2004
Kamiya S, Nagino M, et al	The value of bile replacement during external biliary drainage	Ann Surg	239	510-517	2004
江畑智希、柳野正人、他	肝門部胆管癌に細分類は必要か？	外科治療	90	803-804	2004
Shibahara H, Nagino M et al.	Pathological features of mucin-producing bile duct tumors	Am J Surg Pathol	28	327-338	2004
広松 孝、柳野正人、他	胆嚢癌手術を見直す：至適リンパ節郭清の根拠	胆と膵	25	175-178	2004
西尾秀樹、柳野正人、他	初めての消化器外科手術：肝門部胆管癌	手術	58	1021-1028	2004
小林 聡、柳野正人、他	肝門部胆管癌の術前減黄の意義	胆と膵	25	199-202	2004
江畑智希、柳野正人、他	胆道癌の手術：手術手技のコツ-肝切除における門脈切除・再建-	消化器外科	27	1441-1449	2004
柳野正人、他	胆道疾患の新しい展開：胆道癌-肝門部胆管癌の手術成績-	肝胆膵	49	357-376	2004

真弓俊彦、有嶋拓郎、高橋英夫、武澤 純	重症膵炎	救急医学	28	205-208	2004
真弓俊彦、武澤純	急性膵炎における栄養法とその役割	日本臨床	62	2079-2085	2004
真弓俊彦、伊藤亜抄子、小野寺陸夫、阿部知伸、福岡敏雄、有島拓郎、榊原陽子、高橋英夫、武澤純	急性膵炎の栄養管理	臨床栄養	104	818-821	2004
真弓俊彦、武澤純	急性膵炎にマーゲゾンは必要か？	医薬の門	44	42-43	2004
平田 公一、水口徹	【抗菌薬UPDATE】外科における抗菌薬療法High risk患者に対する抗菌薬療法	医学のあゆみ	209巻	718-724	2004
木村 康利、平田公一、桂巻 正、信岡 隆幸、向谷充宏、佐々木一晃	【若手外科医のための手術アトラス 鼠径ヘルニア、胆石症、痔核】胆石症 腹腔鏡下胆嚢摘出術 典型例	消化器外科	27巻	569-579	2004
木村 康利、高室雅、村上 弦、信岡 隆幸、向谷充宏、桂巻 正、平田 公一	臍頭十二指腸領域の解剖と縮小手術	北海道外科雑誌	49巻	3-8	2004
江副 英理、浦英樹、平田 公一	【外科領域における栄養管理】病態別栄養管理法の実際 重症感染症	日本外科学会雑誌	105巻	223-227	2004
信岡 隆幸、木村康利、向谷 充宏、水口 徹、佐々木一晃、桂巻 正、平田 公一	【急性腹症 診断へのアプローチと手術適応の判断】疾患別にみた手術適応とタイミングの判断 急性閉塞性化膿性胆管炎	救急医学	28巻	111-118	2004
遠藤 格、嶋田紘ほか	肝内胆管炎	消化器外科	第27巻第13号	1941-1947	2004

遠藤 格、嶋田 紘ほか	肝門部胆管癌に対する 拡大肝門部胆肝切除術	手術	第58巻第7 号	1085-109 0	2004
遠藤 格、嶋田 紘ほか	胆嚢癌のリンパ節郭清 はどこまで行うのか？	胆と膵	第25巻第4 号	213-218	2004
遠藤 格、嶋田 紘	胆嚢ポリープ	消化器の臨床	第7巻第6号	585-595	2004
阿部展次、跡見裕	急性閉塞性化膿性胆管 炎	救急・集中治 療	16	929-933	2004
阿部展次、杉山政 則、鈴木 裕、ほ か	内視鏡的乳頭切開術後 の十二指腸穿孔	手術	58	1415-142 2	2004
阿部展次、下位洋 史、松岡弘芳、ほ か	無症状胆石症を含む胆 嚢結石症と急性胆嚢炎 (有石例)	消化器外科	27	1893-189 8	2004
Sugiyama M, Suzuki Y, Abe N, et al	Endoscopic retreatment of recurrent choledocholithiasis after sphincterotomy	Gut	53	1856-1859	2004
阿部展次、杉山政 則、鈴木 裕、ほ か	側視鏡のコツ	消化器内視鏡	16	1614-162 0	2004
阿部展次、杉山政 則、鈴木 裕、ほ か	ERC読影の基本	消化器内視鏡	16	462-466	2004
須藤幸一、木村 理	慢性胆嚢炎	消化器外科	27巻13号	1905-191 1	2004
木村 理、水谷雅 臣、布施 明	腹部救急手術例にお ける高齢者外科治療の 問題点と対策－非高齢 者との比較から－	日本老年医学 会雑誌	41巻6号	660-665	2004
水谷雅臣、木村 理	高齢者腹部緊急手術 症例の検討	日本高齢消化 器医学会議会 誌	6巻2号	58-63	2004

露口利夫、税所宏 光	胆石症.	診断と治療、 増刊号、疾患 別臨床検査パ ーフェクトガ イドーEBM と DRG/PPS を念頭に	vol.92/Supp 1	227-231	2004
大久保昭行、井上 博和、小松裕、露 口利夫	胆・膵疾患の診療の進 め方（座談）	Medical Practice	vol.22(2)	207-222	2005
堂脇昌一、今泉 俊秀、飛田浩 輔、 柏木宏 之、石井正紀、 幕内博康	逆行性(上行性)胆管 炎	消化器外科	27 巻 13 号	1949-19 52	2004
今泉俊秀、堂脇 昌一、 飛田浩 輔、幕内博康	悪性閉塞性黄疸患者 の外科手術の適応基 準とその実際 何を満 たせば根治手術が可 能か	消化器内視 鏡	16 巻 1 号	45-48	2004
Mikami K. Y Yamauchi, M Hyodo, et al.	Liver transplantation in Rigshospitalet, Denmark: Our experience of 37 cases	Medical Bulletin of Fukuoka University	31 (1)	11-16	2004
Yamauchi Y, Yamashita Y, Mikami K, et al	Outcome of liver retransplantation in a combined pediatric and adult transplantaion program -An initial experience in Copnehen	Medical Bulletin of Fukuoka University	31 (3)	139-147	2004
Noritomi T., Watanabe K., Yamashita Y ,et al.	Left sided gallbladder associated with congenital hypoplasia of the left lobe of the liver :A case report and review of literature	Int.Surg	89(1)	1-5	2004

前川隆文、山下裕一、白日高歩	化器外科領域における術後感染症対策	福岡大学医学紀要	31(2)	125-130	2004
Hanawa N, Sano N, Takikawa H	Biliary excretion of azelnidipine, a calcium antagonist, in rats	J Gastroenterol Hepatol	19	413-417	2004
Takada Y, Tachizawa Y, Kurihara H, Takayanagi M, Sasamoto T, Akashi M, Aiso M, Takamori Y, Sano N, Takikawa H	Comparison of urinary excretion of pravastatin and temocapril in bile duct ligated rats and Eisai hyperbilirubinemic rats (EHBR)	J Hep-Bil-Panc Surg	11	125-128	2004
Takikawa H, Takamori Y, Tanaka A, Kurihara H, Nakanuma Y	Analysis of 388 cases of primary sclerosing cholangitis in Japan - Presence of a subgroup without pancreatic involvement in older patients -	Hepatol Res	29	153-159	2004
Tachizawa H, Sano N, Takikawa H	Effects of colchicine on the maximum biliary excretion of cholephilic compounds in rats	J Gastroenterol Hepatol	19	1016-1022	2004
Marumo T, Fukusato T, Takikawa H	Biliary excretion of bile acids and organic anions in rats with dichloroethylene-induced bile canalicular injury	J Gastroenterol	39	981-987	2004
滝川 一	PSCの全国調査（診断基準を含めて）	肝胆膵	49	193-198	2004
滝川 一	胆管の生理機能とその異常	肝臓	45	638-641	2004
田中 篤	抗ミトコンドリア抗体：最近の展開	肝胆膵	49	161-168	2004

Adachi N,HIROTA M,Hamaguchi M, Okamoto K, Watanabe K,Endo F	Serum cytochromec Level as a prognostic indicator in patients with systemic inflammatory response syndorome.	Clinica Chimica Acta	342 (号なし)	127-136	2004
大村谷昌樹、広 田 昌彦、小川道雄	疾患および侵襲に対す る生体反応と遺伝子多 型	侵襲と免疫	13 (2/3)	42-49	2004
平澤博之、織田 成人、松田兼 一、渡邊栄三	SIRS-sepsisの概念と 定義および将来の展望	日本臨床	62巻12号	2177-218 3	2004
織田成人、平澤 博之	重症感染症、敗血症	外科	66巻10号	1183-118 8	2004
野々垣浩二、熊 田 卓、桐山勢 生、谷川 誠	超高齢者の総胆管結 石に対する内視鏡的 治療	日本腹部救 急医学会雑 誌	24 巻 7 号	1135-11 42	2004
桐山勢生、熊田 卓、曾根康博、 谷川 誠、久永 康宏、豊田秀徳	最新の胆道炎治療:急 性胆管炎と急性閉塞 性化膿性胆管炎	消化器外科	27 巻 13 号	1931-19 38	2004

参考

平成 16 年度研究班 班会議

- 第 1 回班会議総会プログラム、議事録
 - 第 4 回ワーキンググループ会議プログラム、議事録
 - 第 5 回ワーキンググループ会議プログラム、議事録
 - 第 6 回ワーキンググループ会議プログラム、議事録
 - 第 7 回ワーキンググループ会議プログラム、議事録
 - 第 8 回ワーキンググループ会議プログラム、議事録
 - 第 9 回ワーキンググループ会議プログラム、議事録
 - 第 10 回ワーキンググループ会議プログラム、議事録
 - 第 11 回ワーキンググループ会議プログラム、議事録
- International Consensus Meeting for the management of
Acute Cholecystitis, Cholangitis program

平成 17 年 3 月 9 日

厚生労働科学研究医療技術評価総合研究事業
急性胆道炎の診療ガイドラインの作成、普及に関する研究班
主任研究者 高田忠敬

厚生労働科学研究(医療技術評価総合研究事業)
急性胆道炎の診療ガイドラインの作成、普及に関する研究班
平成 16 年度班会議 総会予定

記

日時：平成 17 年 3 月 9 日(水)8:00-13:00
会場：ヒルトン名古屋 4 階 竹園 (学会第 3 会場)
〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄 1-3-3
電話: 052 212 1111, ファクス: 052 212 1225

議題：ガイドライン案の総合検討

- 8:00 主任研究者挨拶：高田忠敬
- 8:10 第一章（序）、第二章（論文評価法と推奨度表）
- 8:30 第三章（定義、病態、疫学）
- 9:00 第四章：フローチャートと診療指針、診断基準、重症診断基準
- 10:00 第五章：胆管炎診断：搬送基準
- 10:30 第六章：胆管炎治療
- 休憩 15 分
- 11:00 第七章：胆嚢炎診断：搬送基準
- 11:30 第八章：胆嚢炎治療
- 12:00 第九章：特殊な胆道炎 1～5
- 昼食をとりながら
- 12:45 事務局連絡：吉田雅博
3/11 日本腹部救急医学会シンポジウム 1 について
出版までの今後の予定と国際シンポについて
- 13:00 閉会

厚生労働科学研究医療技術評価総合研究事業
急性胆道炎の診療ガイドラインの作成、普及に関する研究班
平成 16 年度班会議 総会 議事録

日時：平成 17 年 3 月 9 日(水)8:00-13:00

会場：ヒルトン名古屋 4 階 竹園

〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄 1-3-3

電話: 052 212 1111, ファクス: 052 212 1225

議題：ガイドライン案の総合検討

出席者：34 名

主任研究者：高田忠敬

分担研究者：二村雄次、真弓俊彦

外部評価委員：岡本好司、川原田嘉文、税所宏光、清水武昭、

研究協力者：木村 理、桐山勢生、広田昌彦、平澤博之、今泉俊秀、山下裕一、田尻 孝、
宮川秀一、畠 二郎、安田秀喜、炭山嘉伸

ワーキンググループ委員：榎野正人、田中 篤、須藤幸一、堂脇昌一、横室茂樹、
露口利夫、伊東昌広、三浦文彦、木村康利、太田岳洋、海野倫明、小倉行雄、
遠藤 格、上野博一、阿部展次、吉田雅博

欠席者：12 名

平田公一、福井次矢、酒井達也、名郷直樹、今中雄一、滝川 一、安藤久實、
松野正紀、嶋田紘、高崎 健、跡見 裕、関本美穂

議事

1. 吉田事務局幹事より本年度の業績提出および研究費分配、国際シンポジウムについての資料について説明。
2. 高田忠敬主任研究者によりガイドライン案の内容総合検討
8:00 主任研究者挨拶
8:10 第一章(序)、第二章(論文評価法と推奨度表)
8:30 第三章(定義、病態、疫学)
9:00 第四章：フローチャートと診療指針、診断基準、重症診断基準
10:00 第五章：胆管炎診断：搬送基準
10:30 第六章：胆管炎治療
休憩 15 分
11:00 第七章：胆嚢炎診断：搬送基準
11:30 第八章：胆嚢炎治療
12:00 第九章：特殊な胆道炎 1～5
昼食をとりながら
12:45 事務局連絡：3/11 シンポジウム 1 について
出版までの今後の予定と国際シンポについて
3. 高田忠敬主任研究者により第 41 回日本腹部救急医学会総会 2 日目に胆道炎診療ガイドラインの公開シンポジウムが開かれるので、全員出席するよう連絡がある。
4. 高田忠敬主任研究者により 2005 年 1 月 7 日、8 日に国際コンセンサス会議「急性胆道炎診療ガイドライン」が開催されることが、説明された。
5. 13:20 閉会。

以上

平成 16 年 4 月 12 日

厚生労働科学研究急性胆道炎ガイドライン作成
ワーキンググループ委員各位

第 4 回ワーキンググループ会議開催について

謹啓、時下益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

急性胆道炎ガイドライン作成ワーキンググループ委員の諸先生方におかれましては、お忙しい中、論文評価、ガイドライン作成作業ありがとうございます。本年度もよろしく願いいたします。第 4 回のワーキング会議を 2004 年 5 月 12 日（水）に開催いたします。ご多忙中のこととは存じますが、ご出席賜りますようお願いいたします。

謹白

記

会名：第 4 回急性胆道炎ガイドライン作成ワーキンググループ会議

日時：平成 16 年 5 月 12 日（水） 11 時～18 時

交通費、昼食支給いたします。

（翌日の日本肝胆膵関連会議シンポジウム発表者は宿泊費支給）

場所：大阪国際会議場 第一会場

〒530-0005 大阪市北区中之島 5-3-51 TEL:06-4803-5555（代表）

出席予定：主任研究者（高田教授）、ワーキンググループ委員全員

プログラム：

- 1) ガイドライン作成進行状況報告（翌日のシンポ発表者による）
- 2) クリニカルクエスチョンの完成
- 3) 重症度判定法および搬送基準の完成
- 4) 推奨文案の検討
- 5) 今後の予定
- 6) その他

以上

厚生労働科学研究医療技術評価総合研究事業
急性胆道炎の診療ガイドラインの作成、普及に関する研究班

主任研究者 高田忠敬

事務局 吉田雅博

TEL:(03)3964-1228 FAX:(03)3962-2128

厚生労働科学研究医療技術評価総合研究事業
急性胆道炎の診療ガイドラインの作成、普及に関する研究班(主任研究者 高田忠敬)
ワーキンググループ会議
第4回議事録

日時:平成16年5月12日 11:00-18:00

場所: 大阪国際会議場 10階

出席者:高田忠敬、平田公一、真弓俊彦、山下裕一、今泉俊秀、伊東昌広、太田岳洋、木村康利、桐山勢生、須藤幸一、田中 篤、榑野正人、島 二郎、広田昌彦、三浦文彦、横室茂樹、堂脇昌一、阿部展次、遠藤 格、露口利夫、吉田雅博

欠席者:名郷直樹、上野博一、関本美穂

議事

1. 吉田委員によって開会が宣せられた。
2. 5月13日のシンポジウム発表者によるこれまでのまとめが報告された。
 - (1) 本ガイドラインの目指すもの 真弓俊彦
 - (2) 急性胆道炎ガイドライン作成の工夫 (Evidence の多寡とコンセンサス) 酒井達也
 - (3) ガイドライン作成の道筋と今後の方向性 吉田雅博
 - (4) 急性胆道炎の重症度判定と搬送基準の考え方 広田昌彦
 - (5) 検査のポイントはどこか? 木村康利
 - (6) 外科手術術後や悪性疾患に胆道炎は隠れていないか? 須藤幸一
 - (7) 次なる内科的治療と外科へ転科基準は? 露口利夫
 - (8) 急性胆管炎(胆管結石含む)に対する first Aid の処置は?
方法、時期、術前処置—適応と限界—阿部展次
 - (9) 急性胆嚢炎に対する外科治療—開腹 or 腹腔鏡? 時期はいつか? 太田岳洋、
3. 高田班長からの来年度中にガイドライン策定を終了するための委員の尽力の要請が伝えられた。
4. 続いて、急性胆管炎並びに急性胆嚢炎の臨床的クエスチョンに関する検討が行われた。詳細は別紙を参照。
5. 完成した臨床的クエスチョンに対するガイドライン本文の加筆訂正と、推奨文の作成、改訂を5月中に行い、真弓委員まで添付ファイルにて送ることになった。

以上

平成 16 年 6 月 2 日

厚生労働科学研究急性胆道炎ガイドライン作成
ワーキンググループ関係者各位

第 5 回ワーキンググループ会議開催について
第 40 回日本胆道学会特別企画について

大変お世話になっております。上記 2 件につきまして連絡させていただきます。

1. 第 5 回ワーキンググループ会議開催について

ワーキンググループ全員参加の予定です。可能な限りご出席ください
現在集計中のガイドライン本文および推奨文の検討を行う予定です。
出欠を真弓先生までご連絡ください。

2. 第 40 回日本胆道学会特別企画について

<http://square.umin.ac.jp/jba40/>

第 40 回日本胆道学会 特別企画 2

「胆道炎のガイドラインをめぐって－エビデンスはあるのか」

平成 16 年 9 月 24 日（金）15：00－17：00

茨城県つくば市 筑波国際会議場

演者、抄録等詳細につきましては、6/7（月）に再度連絡させていただきます。

厚生労働科学研究医療技術評価総合研究事業
急性胆道炎の診療ガイドラインの作成、普及に関する研究班
主任研究者 高田忠敬
事務局 吉田雅博
TEL:(03)3964-1228 FAX:(03)3962-2128

厚生労働科学研究医療技術評価総合研究事業
急性胆道炎の診療ガイドラインの作成、普及に関する研究班
(主任研究者 高田忠敬)
ワーキンググループ会議
第5回議事録

日時:平成 16 年 6 月 18 日 13:00-17:00

場所: 場所:パレスビル3階 「3-C 会議室」

〒100-0005 東京都千代田区丸の内 1-1-1

出席者:平田公一、伊東昌広、木村康利、桐山勢生、須藤幸一、関本美穂、田中 篤、名郷直樹、畠 二郎、広田昌彦、三浦文彦、横室茂樹、堂脇昌一、阿部展次、露口利夫、吉田雅博、真弓俊彦

欠席者:酒井達也、上野博一、柳野正人、小倉行雄、遠藤 格、太田岳洋、山下裕一

議事

1. 吉田の事務連絡にて、会議が開始された。

第 40 回日本胆道学会特別企画について

<http://square.umin.ac.jp/jba40/>

第 40 回日本胆道学会 特別企画 2「胆道炎のガイドラインをめぐって－エビデンスはあるのか」平成 16 年 9 月 24 日 (金) 15:00-17:00、茨城県つくば市 筑波国際会議場

10 人のワーキンググループ委員の代表により、講演が予定された。演者の詳細については添付文書参照。

2. ガイドライン本文について検討

- ・急性胆道炎の定義について 横室先生担当
 - ・診断基準について
 - ・International biliary association の定義を参考にして検討する。
 - ・定義、診断基準を別に作ることにする
 - ・疫学 Ok
 - ・診断
 - ・桐山先生：レベル付けを文章内に付ける。
何人中何人の書き方を統一する。
文章内容の検討：
腹痛、上腹部痛についての頻度診断
胆石症痛発作についての記載を成因検索に入れる。
表 4：定義、ゴールドスタンダード（診断基準）にする
推奨文を、3 徴にこだわる必要はない。また、ファクターそれぞれが重要な症状であるという文章にする必要あり。
5 徴：そろふこと自体が少ない。本文は事実のみを羅列する。定義が出てから再検討する。原著は、こうであった。という記載を入れる。
原著を確認する。(事務局吉田担当する)
 - ・広田先生：内容 ok
推奨文
合併病態を把握する QC は削除
アミラーゼを移動する
特異度 100% の扱い。症例数が少ないときは、1C からレベルを下げる
 - ・畠先生：レベル 5 の扱い
レベル 4 をレビューしたものはレベル 4 になるが、自分の意見を入れれば 5、元の論文の内容の結論を
使っていれば、4 とする。
ソノグラフィックマーフィーの有用性について強調した推奨文を別に加える
Sonolusent layer, 胆嚢壁肥厚、デブリエコーについても具体的数値を記載する。
胆道炎を胆管炎と胆のう炎を分ける。
診断能に数値を入れる。
CT の検査結果の推奨文を入れる
- 三浦先生：MRCP は推奨度 C とする
以下
2004/07/12 の第 6 回会議（仙台、臓器学会会期前日）に続く事とし、閉会する。

特別企画 2 胆道炎のガイドラインをめぐって:エビデンスはあるのか?

司会 高田 忠敬 帝京大学外科

平田 公一 札幌医科大学第一外科

演者 (案)

1. 本ガイドラインの目指すものは? 名古屋大学 救急部、集中治療部 真弓俊彦、
帝京大学外科 高田忠敬
2. 胆道炎の Evidence はあるのか?—既出のガイドライン検討と Evidence の多寡—
横須賀市立うわまち病院 臨床研修センター 名郷直樹
京都大学 臨床疫学 福井次矢、酒井達也
京都大学 医療経済 今中雄一、関本美穂
3. 医療訴訟に耐えられるのか?—胆道炎ガイドライン作成の工夫と方向性—
帝京大学 外科 吉田雅博、高田忠敬
4. まず行うべき検査は何か? 帝京大学 外科 三浦文彦、高田忠敬、安田秀喜
札幌医科大学 第一外科 平田公一、木村康利
川崎医科大学 検査診断学 畠 二郎
5. 重症胆道炎とは何か?—臨床徴候と重症度判定、搬送基準の考え方—
大塚市民病院 内科 桐山勢生
日本医科大学 第一外科 横室茂樹、田尻 孝
熊本大学 消化器外科 広田昌彦
千葉大学 救急集中治療医学 平沢博之、上野博一
6. 手術後に胆道炎は隠れていないか?特殊な胆管炎を見逃していないか?
東海大学 外科 堂脇昌一、今泉俊秀
山形大学 消化器・一般外科 木村 理、須藤幸一
横浜市立大学 第二外科 嶋田 紘、遠藤 格
7. 初期治療と抗菌薬投与方法は?—急性胆道炎の基本的治療方針と内科的治療—
帝京大学 内科 田中 篤、滝川 一
千葉大学 腫瘍内科 税所宏光、露口利夫
8. 緊急胆道ドレナージの選択は?—方法、時期、適応と限界—
名古屋大学 器官調節外科 榑野正人、二村雄次
杏林大学 第一外科 跡見 裕、阿部展次
藤田保健衛生大学 消化器第二外科 宮川秀一、伊東昌弘
9. 急性胆嚢炎に対する外科治療—開腹 or 腹腔鏡? 時期はいつか?
福岡大学 第二外科 山下裕一
東京女子医科大学 消化器病センター外科 高崎 健、太田岳洋
10. 小児、高齢者胆道炎で特に注意することは?
名古屋大学 小児外科 小倉行雄、安藤久實
東北大学 消化器外科 松野正紀、海野倫明

平成 16 年 7 月 1 日

ガイドラインワーキンググループ
委員 各位

厚生労働科学研究医療技術評価総合研究事業
急性胆道炎の診療ガイドラインの作成、普及に関する研究班
主任研究者 高田忠敬

厚生労働科学研究医療技術評価総合研究事業
急性胆道炎の診療ガイドラインの作成、普及に関する研究班
第 6 回 ワーキンググループ会議のご案内

平素より当研究班の活動におきましては大変お世話になっております。
さて、標記につきまして、下記の通り開催致しますので、御出席の程宜しくお願い致します。

記

日時：平成 16 年 7 月 12 日 13:00-17:00
会場：仙台国際センター小会議室
議題：急性胆道炎診断基準について
急性胆道炎重症度判定基準について
基本的診療指針について
搬送基準について
謝金：支給なし。
交通費：支給、所属地域によっては宿泊費支給。

以上

厚生労働科学研究医療技術評価総合研究事業
急性胆道炎の診療ガイドラインの作成、普及に関する研究班
(主任研究者 高田忠敬)
ワーキンググループ会議
第6回議事録

日時：平成16年7月12日 13:00-18:00

会場：仙台国際センター小会議室

〒980-0856 仙台市青葉区青葉山(無番地) Tel. 022-265-2211 Fax 022-265-2485

出席者：高田忠敬、平田公一、伊東昌広、木村康利、桐山勢生、柳野正人、小倉行雄、須藤幸一、関本美穂、田中篤、島 二郎、広田昌彦、三浦文彦、横室茂樹、堂脇昌一、阿部展次、山下裕一、遠藤 格、吉田雅博、真弓俊彦

欠席者：酒井達也、名郷直樹、露口利夫、上野博一、太田岳洋

議事

1. 吉田より事務局の連絡事項
本年9月の胆道学会特別企画について
2. 高田主任研究者の挨拶
- 1) Chalcot の三徴、5徴を原著に当たる必要あり。
玉熊先生(東京大学)のAOSCの検討。その後、いろいろな検討がなされている。
それらの歴史変遷を調査記載する必要あり。
- 2) 胆道炎のガイドラインでは、胆のう炎、胆管炎、合併した病態を分けて記載
抗菌薬、ラットの試験、アミカシンの胆道内移行の試験、感染症学会の記載を引用している。
普及の条件、使い勝手+内容の充実度
- 3) 各病態のメカニズム
例えば、cholangio-venous refulux は、1966の論文では、、
胆道ドレナージして1ヶ月は、胆汁内に抗菌薬は移行しない。胆道内胆汁移行の最初の論文は誰が報告したか？などの歴史的推移。
- 4) 辟瘡治療のCQを提示された。
Key Wordをあげて、それぞれの歴史、内容を文献検索し、本文の練り直しを十分に行う。
- 5) 鑑別診断
- 6) 搬送基準：途中で死なないように手当てをする手順
- 7) 区域性胆肝炎
- 8) 小児の胆道炎、高齢者の胆道炎
- 9) 手術治療-時期、、、、
- 10) フローチャートを活用する
- 11) 胆道炎の定義と分類
用語の定義をする場合は、原著に当たること、できれば歴史的変遷まで記載する。また用語の定義のCQも作る。
- 12) 胆嚢炎
 - A. 閉塞機転による急性胆のう炎の分類
 - B. 病理学的病態学的急性胆のう炎の分類
 - C. 急性胆のう炎に伴う合併症
 - D. 特殊な胆のう炎
- 13) 胆嚢捻転症：胆嚢間膜の付着部のGROSS I-III型まで調べる
- 14) 胆嚢消化管ろう
- 15) 無石胆嚢炎(%)
- 16) 胆管炎
 - A. 閉塞機転による急性胆管炎の分類
病期分類
急性胆管炎
急性化膿性胆管炎
急性閉塞性胆肝炎

A O S C

- B. 病理学的病態学的急性胆管炎の分類
- C. 急性胆管炎に伴う合併症
- D. 特殊な胆管炎

病期分類

- 急性胆管炎
- 急性化膿性胆管炎
- 急性閉塞性胆肝炎
- A O S C

特殊な胆管炎などに分ける

全体に関する検討点

各章に題名を付ける（詳細は添付書類を参照）

- 第Ⅲ章 定義・病態と疫学
- 第Ⅳ章 基本的診療方針のフローチャート
- 第Ⅴ章 クリニカルクエスチョンと解説
- 第Ⅵ章 治療
 - 全身管理
 - 胆道感染気炎菌と抗菌薬（起炎菌検索結果）
 - 絶食の定義

重症度分類（広田先生）

作成した判定基準案を論文として投稿していただく。

重症度報告数3以上

何を重症とするか？

露口：軽い位置に基準を置く立場で、①から⑦のひとつでもあれば重症とする。

広田：

診断基準はどうする？

診断は当ガイドラインで作成未う、

病理学的診断

胆管壁ならびに胆管内腔の炎症を言う

アンケート調査を行う

診断基準、重症度基準案についての評価

腹部救急、肝胆膵外科、胆道学会の評議員に輸送、ファックスにて集計する
各診断基準の数値についてはアンケートで評価していただく。

「胆のう炎に胆管炎を合併した場合は急性胆管炎の重症度も考慮する。」

急性胆のう炎の重症度判定

以下の項目は入れなくてよいか

- 1、弛張熱
- 2、腹痛の増強
- 3、意識障害

以下の項目は必要か？

- 1、低アルブミン血症
- 2、高熱

についても、検討していただく。

次回8月4日の第7回WG会議を予定して閉会とする。

平成 16 年 7 月 26 日

ガイドラインワーキンググループ
委員 各位

厚生労働科学研究医療技術評価総合研究事業
急性胆道炎の診療ガイドラインの作成、普及に関する研究班
主任研究者 高田忠敬

厚生労働科学研究医療技術評価総合研究事業
急性胆道炎の診療ガイドラインの作成、普及に関する研究班
第 7 回 ワーキンググループ会議のご案内

謹啓

平素より当研究班の活動におきましては大変お世話になっております。
さて、標記につきまして、下記の通り開催致しますので、御出席の程宜しくお願い致します。
謹白

記

日時：平成 16 年 8 月 4 日 13：00-17：00
会場：東京八重洲ホール 8 階 800 会議室（JR 東京駅八重洲中央口より徒歩約 3 分）
八重洲地下街 22 番を上がりますと雨にぬれずに当ホール前に出られます。
〒103-0027
東京都中央区日本橋 3-4-13
TEL:03-3201-3631、FAX:03-3274-5111
<http://www.yaesuhall.co.jp/>
議題：ガイドライン内容の検討
胆道学会特別企画について

謝金：支給なし。

交通費：支給。

（基本的に全員参加の予定です。欠席される先生は、名古屋大 真弓先生までご連絡ください。）
以上

厚生労働科学研究医療技術評価総合研究事業
急性胆道炎の診療ガイドラインの作成、普及に関する研究班
(主任研究者 高田忠敬)
ワーキンググループ会議 第7回議事録

日時：平成16年8月4日 13:00-17:00

会場：東京八重洲ホール 8階 800会議室（JR東京駅八重洲中央口より徒歩約3分）

〒103-0027 東京都中央区日本橋3-4-13

TEL:03-3201-3631、FAX:03-3274-5111 <http://www.yaesuhall.co.jp/>

出席者：平田公一、酒井達也、木村康利、桐山勢生、須藤幸一、関本美穂、田中 篤、畠 二郎、広田
昌彦、三浦文彦、堂脇昌一、吉田雅博、真弓俊彦、太田岳洋、山下裕一

欠席者：名郷直樹、露口利夫、上野博一、榎野正人、小倉行雄、遠藤 格、阿部展次、横室茂樹、伊
東昌広

議事

1. 吉田の事務連絡にて、会議が開始された。

第40回日本胆道学会特別企画について <http://square.umin.ac.jp/jba40/>

第40回日本胆道学会 特別企画2「胆道炎のガイドラインをめぐって－エビデンスはあるのか」平成16年9月24日（金）15:00-17:00、茨城県つくば市 筑波国際会議場
10人のワーキンググループ委員の代表により、講演が予定された。（資料参照）

2. ガイドライン本文について検討

治療の全項目の内容およびクリニカルクエスチョンについて詳細に検討した。

小児、高齢者、特殊な胆管炎については、次回に持ち越しとなった。

以上